うしく里山の会 広報誌
さとやま
No. 81　2009年11月号

NPO法人 うしく里山の会
事務局 〒300-1212 茨城県牛久市結束町489-1
（牛久自然観察の森内）
TEL 029-874-6600　FAX 029-874-6812
E-mail u_satoyama@infoseek.jp
HP http://u-satoyama.web.infoseek.co.jp/

豊かな里山での自然との出会い！

里山自然観察隊　石川　満夫

切り株が並ぶ水田での植物観察

第四回植物観察会「小野川下流域水田四ヵ所の植物観察」

十月十日（土）標記植物観察会を実施。当日は秋の気配一杯の爽やかな気持ちの良い天候下での活動。午前九時、牛久自然観察の森駐車場に集合。総勢十一名。出発前、渡辺さんの話でこの観察会の目的などを再確認。十五分後、車三台に分乗、最初の観察地正直町の水田へ。

ここは区画整理された東西に長い長方形の水田で二十八アール程の広さ。良く管理されていて植物の種類・数は少ない感じ。畦を歩く、紫色の頭花のカントウヨメナが何株も目に留まる。ノゲシ・オニノゲシも。ノゲシの違いは葉の形で区別できと渡辺さんの解説。稲刈りの済んだ水田の切り株から緑の葉が伸び田に緑が広がり、二番穂が出ている株も。土が小さく盛り上がり中央に穴が開いているところがあちこちに。アメリカザリガニの巣。やはり水田内に植物の種類は少ない。スズメノテッポウ、アメリカアゼナ、タネツケバナが目立つ。確認した十五種程の植物名と発生量を記録し、次の観察地島田町の水田に移動。

ここも同じような形状・広さの水田。農道にタンポポが黄色い花を咲かせ、畦にはアキノノゲシの黄色い花が満開。イヌガラシが黄色の小さな花と細長い果実を付けている。

ここでもアメリカアゼナ、スズメノテッポウ、タネツケバナが目につき他の種類は殆ど見つけられない。畦から水田にキシュウスズメノヒエが茎を伸ばしている。茎先に二つの花穂。植物十三種程を記録、再び移動。奥原町の水田に。

水田内に較べ畦は賑やか。多くの小穂を付けたヒデリコ。綺麗な黄色い花と果実のあるヒレタゴボウ。茎の下部に小さなヒレ（翼）が見える。テンツキ、ヒメジソも。スカシタゴボウは掘り起こして観察。果実はつの状、根はゴボウに似ているが白色、長さは三〇㎝程。田んぼに馴染みの生き物、小さいタニシが沢山いた。手にとって確認。水のある環境（準湛水）の由か。タネツケバナ、アメリカアゼナ、アシカキなどを確認、六種程を記録し最後の観察地小坂町の水田へ。ここでも水田内の植物の状態は同じ傾向。十五種程記録。

今回は当初観察地として予定した所が既に浅く田起こしされていて観察地を変更したり、スギナとイヌスギナの区分やスカシタゴボウについて詳しく観察し時間が掛かったことも有り、一時間近く予定をオーバ。牛久自然観察の森駐車場の帰着が午後一時過ぎに。

街路樹

チーム街路樹20受託事業報告

佐藤　輝雄

日本の道百選「つくば道」を歩く！

九月二十七日（日）チーム街路樹２０では、日本の道百選に選ばれた古道「つくば道」の散策を実施した。参加者は十三名。

八時三〇分に四台の車に分乗し市役所を出発する。最初に北条大池近くの「平沢間衙遺跡（ひらさわかんがいせき）」に立寄る。資料によると、ここは今から千年以上前の奈良・平安時代の役所跡の正倉院で、国指定史跡になっている。今は高床式の板倉、土壁双倉、校倉の三棟が復元されている。案内所でビデオによる説明をうけたあと、特別に校倉の建物の中を案内してもらう。まだ、桧の香りがする建物である。天気の良い日は筑波山を背景に素晴しい景色になるとのことだが、今日は生憎の曇空、それを望むことはできなかった。

遺跡を後に北条の街に車を進める。駐車場に車をとめ、いよいよ「つくば道」。道標に従ってしばらく歩くと「普門寺」に到着。つくば道では所々に散策の人たちのために、トイレやお茶を提供してくれる場所がある。普門寺もその一つでお茶をご馳走になった。普門寺は阿弥陀浄土信仰として一三〇〇年代に建立され、江戸末期には水戸天狗党の一隊が蜂起した陣営所となったようだ。寺を後にして更に歩く。

道の両側には立派な板塀や門のある大きな家が続く。ふくれみかん・黄色く色ついた柿の実・赤く染まったナツメ・ざくろ等が目に付く。坂道もきつくなり十三人の足取りも乱れ始める。この坂道の周辺で生活している人たちは、高齢者にもなると難儀の地形であろう。　前もって予約しようとした蕎麦屋があった。ちょうど昼食時間でもあり入ることにした。店の名は「ゐだ」。中に入るとたたきの土間に大きな囲炉裏、中々洒落た店である。まず茶が出てきた（本格的な茶である、結構なお手前というところ？）。そしてやっと、洒落た焼物の器の上に盛られた蕎麦がきた！なるほど凝っている。蕎麦は生粉打ち（十割）とのこと。歯応え十分である。値段も安くはないがガンコ主人の出す蕎麦であろう。味を堪能したあと店を出て更なる登りの道を進む。

しばらくすると車道とも離れ、階段の登りになる。息を切らしながら登ると、やっと筑波山神社の前に到着した。実は私が中学生のころ何度か登った道である。懐かしく見覚えのある景色を想いだしながら足を進めると、あった！中学生のころ林間学校で泊まった旅館「筑波館」である。私だけの思い出である。

何人か遅れてきたため先行組みは神社の境内で待

再現された板倉　佐藤　09.9.27

つことにした。Mさんが遅れた人たちを迎えに行ったが行き違いになる。Mさんは不満そうに戻ってきた。しばらくして帰路につく。帰りは早い（なにしろ下り坂だから）。

やがて北条の街に戻って、ふれあい館「岩崎屋」に立寄りしばし休憩するが、この建物は明治初期のもので米や肥料等を取引していた店とのこと。メンバーはここで珍しい北条米スクリームを購入し固い固いといいながら食べ始めた。

十六時ごろ牛久に帰った。今まで何度か「日本の道百選」を見たが、共通していることは歴史ある道、近代的な道でその道に広がる街並み、街路樹がうまくマッチした景観である。私たちは地元の人たちと触れ合いながら、それを求めて歩くことだと感じた。　この素晴らしい計画を組んでくれたKさんに感謝一杯である。

親子農業体験講座

小山　晴美

畑の住人たち、あらわる

九月十二日、どんよりと薄暗い空の下、まず目に飛び込んできたのは、一面に広がったソバ畑。二週間前に撒いたソバの種は無事芽を出し、順調に成長しているようだ。密集して列をなし、時折吹く風にゆらゆらと揺れる姿は爽やかで、壮健そのものだった。

この日の作業は春に植えたサツマイモ、サトイモ周辺の草とり。途中パラパラと小雨が降ったり、止んだりの中での除草作業。でも冷たい小雨もなんのその。畑のそばの大きな木やサトイモの葉が雨傘となり作業中もほとんど濡れないで済んだ。

子供たちも一丁前に小さな鎌を握り締めて、草とりのまねごと。合間にコオロギやバッタを見つけては、あちらこちらで観察会が始まった。

そして突然のサプライズ。畑の茂みから、子供の顔ほどもあろうかという大きな蛙がのそのそと迷惑そうな顔をして出てきたではないか。更に、堆肥置き場のシートの中からは小さな蛇が。それらを会の方が早速つかまえて、子供たちに見せてくれた。蛙の白くふくよかなお腹や「四六のガマ」と呼ばれる由縁となっためずらしい足の形。ちなみにこの蛙は身体から毒を出すとか。触れようとした手をあわてて引っ込めた。蛇は口からひゅるひゅると舌を出し、ひんやりとした身体は筋肉質でキュッと引き締まっていた。突然の畑の住人登場に子供たちはおっかなびっくり。でも興味深そうに近づいては目をまん丸にして見入っていた。

親子農業体験講座に家族で参加して、半年。農業は初心者だが、植え付けから成長の過程まで体験すること全てが新鮮で毎回わくわくしている。畑ではこうして、普段お目にかからないめずらしい動植物にも出会え、野うさぎの置き土産のフンなどを発見することもしばしば。里山にいると、不思議と普段の生活では見えない何かが見えてくる。五感で感じられるのだ。季節の移ろいや多くの生き物たちの営み、作物を作る楽しさ大変さ、食の安全やありがたみ。インターネットの普及で、世の中の情報や知識はあふれるほど豊富になったが、こんな小さな実体験こそ大切に、子供たちとたくさん積み上げていけたらと思う。

里山の蝉しぐれも去り、うろこ雲にひんやりとした風を感じるようになった。もうすぐサツマイモ、サトイモの収穫の日を迎える。自分で育てた野菜の味は、一味も二味も違うだろう。子供たちにとっても、一生忘れられない味になるはず。サトイモの葉にきらきらと光る雨粒を見て、そう思った。

雑木林応援隊

関　義治

自然に入り込む魅力！

森で草刈等をやっていると、「ボランティアですか？ご苦労様です」と入園者から声をかけられることがありますが、ボランティアという言葉を聞くと、いつも戸惑っているのは私一人だけではないようです。なぜなら、私たちは人の為とか観察の森の為に、滅私奉公しているつもりは全くないからです。雑木林応援隊は、下草刈り、雑木の伐採、炭焼き、キノコの栽培・・・等、雑木林を主体とする里山の生活体験や、藤棚、竹垣、炭小屋、物置小屋等の作製や、井戸掘り、動力機付農機具の点検整備と、土建業の分野まで幅広く活動しています。

しかし、これらの活動はみんな他人のためではなく、すべて自分自身の遊びとしての楽しみです。草刈にしても。我が家の狭い庭先の草刈よりも、梅林の広い庭園の草刈の方がダイナミックで達成感を感じることが出来るからです。森で楽しく遊ぶことが主で、その副産物として人のためになっているならば、これに越した喜びはありません。

市民講座としての「つる籠編み」「草木染」「炭焼き体験」も、私たちの里山で遊ぶ楽しみ方をみなさんにも知って貰いたくて毎年開催しています。

先日の「草木染」に参加された方の感想文を紹介させていただきます。

『一年前、初めて里山の会の「つる籠教室」に参加させていただいてから、気持ちのいい屋外で、近くで採れた材料を使っての物作りがとても楽しく、また、炊き出していただいた、ほうとうを、竹で作られたお椀とお箸で頂いた感激が忘れられず、すっかり、里山の会の教室のとりこになって

しまいました。「炭焼き教室」それから今回の「草木染め教室」と三回目の参加となりました。今回も、期待を遥かに超えて、初めての草木染めは感動の連続でした。藍の収穫から体験した藍の生葉染めでは、染液に漬けた時、空気にさらした時、乾いた後、と色を変える様にびっくりし、自然の力の不思議を感じました。他にも様々な植物の草木染め、絞り染め、媒染を試すことが出来、盛り沢山な内容に、興味深いことだらけで、大満足の一日になりました。そして、もう一つのお楽しみ、お昼は、竹で作られた流しそうめんで、みなで並んで食べるそうめんは格別に美味しかったです。毎回、貴重な里山遊びの楽しさを体験させていただき、ありがとうございます。四季に合わせた作業の話などから、里山についても少しずつ分かってきたように思います。』

染めた生地を広げ空気にさらし発色を促している
竹腰　09.8.23

巨木リサーチ2事業報告

羽賀　正雄

樹を見る(続)

診断グループの活動の内容や樹木の診断の考え方・方法の概略について、本誌六月号に猪野年郎さんが紹介されています。その時点で、実施したのは二箇所三本でしたが、その後三回・六箇所・十一本を診断し、十一月の一本で予定の十五本を終了します。参加者は一回三～八名・延べ二二名でした。

診断は、先ず樹木の外観を、遠くから近くから、あちらこちらから観察(目視)し、「樹勢」と「樹形」について、五段階評価をします。樹勢では葉の量や色、梢端の枝葉の状況、太枝の枯れなどに着目します。次いで診断カルテ(緑化樹木用を準用)にある調査事項を一つ一つ調べ、樹体の健康状況をチェックします。調査箇所は根元・幹・骨格太枝に区分し、腐朽、欠損、枯れ、空洞、キノコ、虫穴、病害等の有無・程度について調べます。

調査結果から、活力を表す樹勢について見ると、「異常が明らかに認められる」が六本、「生育が劣悪で回復の見込みがない」が二本で、残りの六本は特に目立つ異常はありませんでした。これらの中で最も異常が見られたのは、久野町鹿島神社飛地のスダジイです。写真でご覧のように、根から幹にかけて大きな空洞があり、かなり上まで樹皮が剥げ落ち、異様な樹姿をしています。診断では「長い間の周囲の竹薮による日照不足、タケの繁茂による根系の損傷などで、相当重症の状況にある。まずは、日照の回復が望まれる」と判定しています。（調査後に管理班でタケの除去を実施しています）ただし、これはあくまでも健康面からの評価であり、一本の巨樹としては、樹齢五百年の風格を醸し出し、オーラ(霊気)さえ感じられます。

これらの調査には専門知識と多くの経験を必要とします。今回の調査は、樹木医としてご活躍されている猪野さんを中心に行い、調査を実施しながら、診断する場合の目の付け所―樹体そのものに加えて、樹木を取り巻く環境等―について現物を目の前にして具体的に学ぶことが出来ました。「樹木も人と同じで、年齢相応の表情がある。経年変化の記録が大切である」との猪野さんの説明に納得させられました。

今回の調査成果である診断カルテは、これまでの一連の調査(樹高・幹周・周辺環境等)とともに巨木データ(記録)として、今後の活用に資するものと考えます。

スダジイの空洞:久野町鹿島神社飛地(市民の木No.15)
芋銭描く「木精」の棲家か？
渡辺　09.6.30

あやめ受託事業報告

佐藤　晋

あやめ園での一年を経過して

田圃の黄金色に実った稲穂もすっかり刈り取られ収穫も終った。また、アヤメ園の畦道に、真っ赤に咲き楽しんだ彼岸花も咲き終わり茎のみが残る。今では緑の葉が出てきた。早くも秋の気候になり、朝・夕の寒さを感じるようになってきた。

アヤメ園受託事業に入会して九月で一年になり、私なりにアヤメ園の認識と、花菖蒲の花に対する勉強と努力をしてきました。花を咲かせる管理がこんなに大変なんだと改めてその内容について驚いた。やっと仕事の中身も判り、皆さんについて行ける様になったが今後も続けて指導をお願いしたい。

九月のアヤメ園の仕事状況は、アヤメ園全体の長く伸びた雑草の草取り作業だ。全員で汗と泥にまみれ草取りに奮闘している。

私なりに今年のアヤメ園を振り返って見ました。アヤメ園の春には、桜の花の咲く頃から紫色したカレンなアヤメの花が咲き、各種類色のカキツバタの花、黄・紫・白、色取り取りの花菖蒲の花と、順々に沢山の花が咲きだし見頃を迎える。連日、カメラ片手にお客さんが訪れ、賑やかになり多くの来園のお客さんに喜んでいただく。田圃の田植えが終る頃にはアヤメ園にも水が入り、畝と畝の間に小川ができ、沢山のメダカや蛙が姿を現し列を作って泳ぎだす。花の咲いている所には無数の蝶々が飛び交う姿もみられる。

春のアヤメ園では山吹・ふじ・つつじの順で花が咲く。六月には紫陽花も咲く。二つの池には紅白の睡蓮の花も咲きだし長い期間楽しむことが出来る。見学に訪れるお客さんも多くなる。

アヤメプロジェクトチームのメンバーはひたすら除草作業に追われる。大きく伸びた草の根を身を泥にしてひたすら草取りに専念する。しかしアヤメ園の皆さんはユウモアと話術と笑いがあります。手を休めることなく常に除草に専念しながら、話題を面白く解読し笑いを提供してくれる話術の中には、頭の体操になり勉強にもなります。そんな時は腰の痛む除草作業も忘れてしまう。

七月頃になるとアヤメ・ハナショウブの花も終わり、次の花の促進のため花柄摘みを欠かせない。今年は近くの小学校の児童達に、野外学習の一環としてお手伝いをして頂く。

七月には三年目の株分け対象になる株を抜取り、スコップを用いて畝を掘り返し、新たに畝を作り直す。夏の暑い炎天下の中の肉体労働は辛い。掘り起こした株を一本一本丁寧に植付ける。休眠期前に株が根付くように。

株分けが終るとアヤメ園は畝全体の除草作業に専念する。除草後の株にお礼の肥料を与えると、雑草が勢いずいてドンドン伸びてくるが、負ける訳にはいかない。私達が勝ちになるよう更に泥にまみれ雑草取りに奮闘するしかない。

秋も後半になると雑草の中にいるイナゴやコオロギの昆虫やその他の虫類が除草により我が家を追われ住家を失い逃げ回る。

アヤメ園の秋は赤・白の萩が咲くが、その花も今は散り秋も深まりつつある。間もなくハナショウブの茎も枯れ休眠期に入る。

春先には大きな株になり芽出を待つ。

4月満開の桜を背に作業するメンバー

自然観察出前講座

石神　良三

「ヘイケボタル」の保全と稲刈り体験

牛久自然観察の森の園外事業の一つである「ヘイケボタル」の保全活動も、向台小学校と協働して三年目。本年度の活動の主役は、五年生一一八名だ。そして、この活動を側面からサポートしているのが、自然観察出前講座のメンバーだ。

ヘイケボタルの生息環境は、自然水を利用した谷津田での米作りの中で維持されてきた。現在牛久市内に残る数か所の生息地に共通する環境は、周辺の里山や斜面林から流出する地下水や湧水の存在だ。このような年中絶えることの無いきれいな水環境が、ヘイケボタルの餌となるカワニナやタニシなどの巻貝の繁殖を可能にしているからだ。

現在の米作りでの水の確保は灌漑用水であり、冬場の田んぼは乾田化し生きものは絶えてしまうためホタルの幼虫も生息できないわけだ。

それでは、こども達がヘイケボタルの保全のためになぜ米作りに取組んでいるのだろうか。それには次のような理由があります。

○田んぼは、牛久町のSさんよりお借りしたもので江戸時代より手作業による米作りをしてきた。

○隣接する斜面林から、地下水と湧水が少量ではあるが田んぼに直接流入している。

○田んぼの面積も狭かったので、灌漑用水は利用しなかった。

○一年中水は枯れることなく、多くの生きものが生息し、貴重なヘイケボタルの自生地となっている。

十月十三日に実施された「稲刈り」も、四百年

秋の収穫　稲刈りをするこども達　　石神　09.10.13

もの間へイケボタルの命をつないできた自然遺産ともいえる小さな田んぼを守る保全活動の一コマなのです。

「稲刈り」が初めてというこども達は、素足泥まみれで大騒ぎ。アメリカザリガニやアカガエルも登場して、へイケボタルの幼虫が泥中に生息していることも実感できたようだ。

へイケボタルの保全のための米作りの体験が、こども達の今後の成長を支える力となることを願わずにはいられない。

トピックス

チワキンレン（地桶金蓮）

横山さえ子

街路樹の調査で図書館の近くに行くと、いつも皆で何だろう、何だろうと気になる植物がありました。バナナは茎からたれ下がってなっていますが、そのバナナを地面につきさしたよう、花もバナナそっくりです。

図書館で聞くと、どこかに問合せ「チワキンレン」の返事でした。何冊の植物図鑑でさがしてもありません。もう一度問合せると、「地桶金蓮」、確実園さんのおすすめだったそうです。さっそく聞きにいくと「変わったものを植えたい。さつきばかりじゃおもしろくないでしょ」、最も珍しいバナナで、花をみるのだそうです。二十年ほど前までは、中国で第一級の植物で、外国に出すことは禁じられていたとのこと。一年か二年で花が咲くと枯れ、次に何本も芽を出すとのことです。

ショウガ目バショウ科単子葉植物で、ショウガは当然、カンナもショウガ目です。

「地桶金蓮」―「地面からわき出た黄金の蓮の花」の意味

図書館近くの
チワキンレンの花

運営委員会からのお知らせ

坂　弘毅

十月十八日開催・第七回運営委員会

①うしくの里山フォトコンテスト

十月十八日一次審査にて二百十八点の応募作品から七十一点に絞り込み、観察の森で一般投票を開始。（十月末まで）

二次審査は十一月五日予定。

表彰式は十一月二十九日、十時半より。

②うしく里山秋祭り

昨年に引き続き、観察の森を中心に実施。

朝市・スタードームと里山のおもちゃづくり体験などの他、各プロジェクトから、昨年に準じた形で催し物を企画中。

祭り当日は、写真コンテストの表彰式も行う。

③うしく・せいかつ・環境まつり２００９

十二月五日中央生涯学習センターで実施

第一回の環境祭りに里山の会としてブースを確保。秋祭りで展開した丸太タワー・森のクラフトづくり・つる籠などの展示をする予定。

里山セミナー開催

みなさん是非ご参加ください。

開催日時：十一月十四日（土）十時～十一時半
会場：牛久自然観察の森　レクチャー室
題名：人里雑草の生い立ちと変遷
講師：佐合隆一（茨城大学 農学部付属フィールドサイエンス教育研究センター教授）
講師プロフィール
研究対象：農業生産技術学および雑草学
作物栽培技術にかかわる「作物生産技術学」および雑草防除にかかわる「雑草学」を専門とした教育研究。

結束町みどりの保全区
エコアップ作戦　齊藤　孝

十一月の活動は全三回、いつもの月より一回多く活動を行います。という事は、そうです、今年も「うしく里山秋祭り」に行事出展いたします！。

内容は「カブトムシの家を作ろう！」。活動場所はコジュケイの林、堆肥作りやカブトムシの幼虫の隠れ家づくりを行います。事前の申込は必要ありませんので、当日午後一時にバッタの原にご集合下さい。皆で楽しく森づくりを行いましょう

【うしく里山秋祭り☆カブトムシの家を作ろう】

活動日時→十一月二十九日（日）午後一時～三時
集合場所→バッタの原（青い旗が目印・雨天中止）
※ 林で落ち葉かきが出来る服装でご参加下さい。
参加無料＆予約不要

【エコアップ作戦定例活動】

活動日時→十一月六日（金）午前九時～十一時半・十五日（日）午後一時～三時半
集合場所→ネイチャーセンター一階倉庫前
（予約不要／雨天・強風時は中止→会ホームページに情報掲載）
持ち物→長靴、軍手、タオル、帽子、飲み物（長袖、長ズボン）
※刈払い機やチェーンソーの使用は資格所有者に限ります。
（問い合わせ先）029-874-0066　担当：齊藤）

牛久自然観察の森だより
齊藤　孝

芸術の秋　森のクラフトにチャレンジ！

ネイチャーセンターでは十一月八日（日）まで、牛久バードカービング同好会（吉田徳郎代表）主催の作品展を開催しています。バードカービングとは、その名の通り「野鳥の木彫」です。

同好会では、毎月第一・三土曜日の午後一時から三時まで月例会（製作活動）を行っていて、年に数回、発表会を行っています。活動に興味の在る方は、月例会の見学にどうぞご来館下さい。

また、十一月十八日（毎月第三水曜日）の午前十時から正午までは、木炭画で季節の風景をスケッチする「こころ絵日記教室」も活動しています。こちらも見学自由です。芸術の秋、どうぞ森でのクラフト体験をお楽しみ下さい。

バードカービング（野鳥の木彫）より
ムクドリ

皆さん会報に投稿しませんか！

みなさんで会報を作りませんか！
皆さんに是非見てほしいこと、珍しいこと、ご意見等ありましたら投稿をお待ちしています。
文章は最大四〇〇字、写真（サイズ500k位）
（コメント・撮影者・撮影日）写真はなくてもOK。
（送り先）佐藤輝雄
メールアドレス　u-satoyama@jcom.home.ne.jp
・紙面の都合上翌月に回す場合があります。
・なお、誹謗・中傷等の場合は掲載できません。

今月の古木・希少木
No. 31
アキグミ

グミ科の落葉低木。北海道の渡島半島から本州、四国、九州の屋久島に分布し、県内では全域に点在します。高さ三～五m。樹皮は灰褐色を帯びます。葉、花、果実に白色から褐色の鱗片状や星状の毛があり、そのため、全体的に白っぽく見えます。枝は棘になっているのが特徴です。葉は倒卵状楕円形、または倒皮針形で長さ四～八cm。花は葉腋に一～三個束生し、四～五月に筒状の白い花を咲かせます。果実は長さ六～八mmで、写真のように球形ないし球状楕円形です。名前のとおり、秋に紅熟し食べられます。果実酒にすると、鮮やかなルビー色になり美味です。好日性で樹勢が強く海岸の流砂防止などとしても植栽されます。牛久では林地に点在し、観察の森の観察舎入口でナツグミやナワシログミとともに見ることができます。なお市内には、アキグミの変種で葉が広くて丸いマルバアキグミも自生しています。アキグミと同じく本来は海岸に多い種類ですが、牛久沼の土手でも見られ、また柏田町の個人宅には立派な古木があり目をひきます。

（假屋英子）

アキグミの果実
09.9.26

11月の里山カレンダー

※活動日は天候等都合により変更になる場合がありますので，最新情報はホームページでご確認ください。

日	月	火	水	木	金	土
1 ○巨木リサーチ2(特 8:30市役所玄関	2 (休園日) ○アヤメ園(受) 7:50アヤメ園P	3 (文化の日)	4 (休園日)	5 ○アヤメ園(受) 7:50アヤメ園P ○森の畑 9:30畑 ○ﾌｫﾄｺﾝ第2次審査 14:00NC	6 ○ｴｺｱｯﾌﾟ作戦 9:00NC	7 ○親子農業体験講座 9:00畑 (雨天時は14日)
8 ○雑木林応援隊 9:00ムジナ	9 (休園日) ○アヤメ園(受) 7:50アヤメ園P	10 ○森の畑 9:30畑	11	12 ○アヤメ園(受) 7:50アヤメ園P	13	14 ○里山自然観察隊 9:00得月院前P ○里山セミナー (人里雑草の生い立ちと変遷) 10:00NC (会報等原稿〆切)
15 ○運営委員会9:00NC ○ｴｺｱｯﾌﾟ作戦 13:00NC	16 (休園日) ○アヤメ園(受) 7:50アヤメ園P	17 ○ﾁｰﾑ'街路樹20(受 8:30市役所玄関 (巡回管理) ○森の畑 9:30畑	18	19 ○アヤメ園(受) 7:50アヤメ園P	20	21 ○親子農業体験講座 9:00観察舎 ○雑木林応援隊 9:00炭小屋
22 ○ﾁｰﾑ'街路樹20(受 8:00牛久駅 (研修会) ○雑木林応援隊 9:00炭小屋	23 (勤労感謝の日) ○アヤメ園(受) 7:50アヤメ園P ○雑木林応援隊 9:00炭小屋	24 (休園日)	25 (休園日)	26 (休園日) ○アヤメ園(受) 7:50アヤメ園P	27 ○会報発送13:00NC	28 ○親子農業体験講座 9:00畑 ○ﾁｰﾑ'街路樹20(受 13:00市ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱC (交流会)
29 【うしく里山秋祭り】 詳細はチラシ参照 ○里山セミナー (フォトコン表彰式) 10:30NC	30 (休園日) ○アヤメ園(受) 7:50アヤメ園P					

凡例　森：観察の森，NC：観察の森ネイチャーセンター，P：駐車場，炭小屋：観察の森駐車場奥の炭小屋，畑：観察の森駐車場奥の畑，
コジュケイ：観察の森内コジュケイの林，観察舎畑：観察の森内観察舎前の畑，ムジナ：結束町の雑木林(通称ムジナの里)，市役所：牛久市役所本庁舎，
アヤメ園：三日月橋観光アヤメ園，(受)：受託事業，(特)：特別事業，(休園日)：観察の森休園日，ボランティアC:牛久市ボランティア市民活動センター

編集後記

●早くも十一月、最近まで「暑い・真夏日・・・」等聞こえていたような気がするが、夜はふとんの中を暖かく思い、朝晩は寒ささえ感じられるこの頃である。澄んだ秋空のなか、空気は清々しく、外での行動はしやすい時期でもある。十一月の節は初冬で七日は立冬、そして霜月とも言われ冬の準備の季節でもあるが、一年の中では最も気候が安定し小春日和が続く頃でもある。ただ「女心と秋の空」ということわざもある（女性には失礼！）。

●ＮＨＫの課外授業という番組を見ていたら、天気予報士の方が先生になり「観天望気」について話をしていた。内容は、まず子どもたちが近所を回って天気に対する自然のことわざを聞き集める。次にその内容を一週間かけて検証するのだ。ことわざによる的中率は四〇％位だったが、この予報士もデータによって天気予報をおこなうが、最終判断は外にでて空を見上げることを欠かさない。自分の目で確かめ直感というものがある意味で自信を持たせるようである。雲の関連では、うろこ雲（巻積雲）は天気変化の兆候、おぼろ雲（高層雲）は雨の前ぶれ等々多くある。自然発生ではないが飛行機雲がすぐ消えると晴れ（上空の湿度が低いため）、広がると悪天の前兆ともいわれる。

●先日、うしく里山の会でのフォトコンテストの準備をしてきたが、どれも里山の想いを写した心のこもった作品である。写真は過去も未来も写せない。今の事実のみ、その瞬間（時間を止めて）を切り取って、その写真を見る人に過去や未来の想像と、喜怒哀楽という感動を与える一枚の絵である、と私は思った。この傑作を会員の皆さんも是非見ていただきたい。

（佐藤　輝雄）

広報委員会からのお知らせ

次号12月号の発送は11月27日(金)午後1時からです。お手伝いいただける方はネーチャーセンターまでお越しください。よろしくお願いいたします。